

当法人に 訪問によるリハビリテ

1)ゆきよし

2)ゆきよし訪問

3)新潟県障害者リハ

清水美

山田早織(OT)¹⁾²⁾ 小林奈

尾崎千晶(PT)¹⁾²⁾ 北上守

おける

ーシヨンの実態調査

クリニック

看護ステーション

ビリテーションセンター

穂(OT)¹⁾²⁾

都子(PT)¹⁾²⁾ 板垣沙織(PT)¹⁾²⁾

俊(OT, ST)³⁾ 荻荘則幸(MD)¹⁾

当法人の訪問による リハビリテーションの概要

診療所

ゆきよしクリニック

平成12年開始

介護保険

医療保険

訪問看護ステーション

ゆきよし訪問看護ステーション

平成24年開設

介護保険

医療保険

※本調査での訪問リハとは、診療所からの訪問リハビリテーションと訪問看護ステーションからの訪問を合わせた内容を示す

	ゆきよしクリニック		ゆきよし 訪問看護ステーション	
制度	介護保険	医療保険	介護保険	医療保険
訪問頻度	週6回まで	週6単位まで (退院日から起算して3ヶ月以内は12単位まで)	週6回まで	週6単位まで (退院日から起算して3ヶ月以内は12単位まで)
訪問時間	20分(1回)	20分(1単位)	①20分(1回) (理学療法士等による訪問の場合) ②30分未満 ③30分以上60分未満	30分～60分 (概ね40分)
負担	1～2割負担	1～3割負担	1～2割負担	1～3割負担
指示	ゆきよしクリニックの医師		主治医	
診察頻度	3ヶ月に1回	1ヶ月に1回	主治医の指示した期間 (1～6ヶ月まで)	

訪問地域

ゆきよしクリニック
ゆきよし訪問看護ステーション



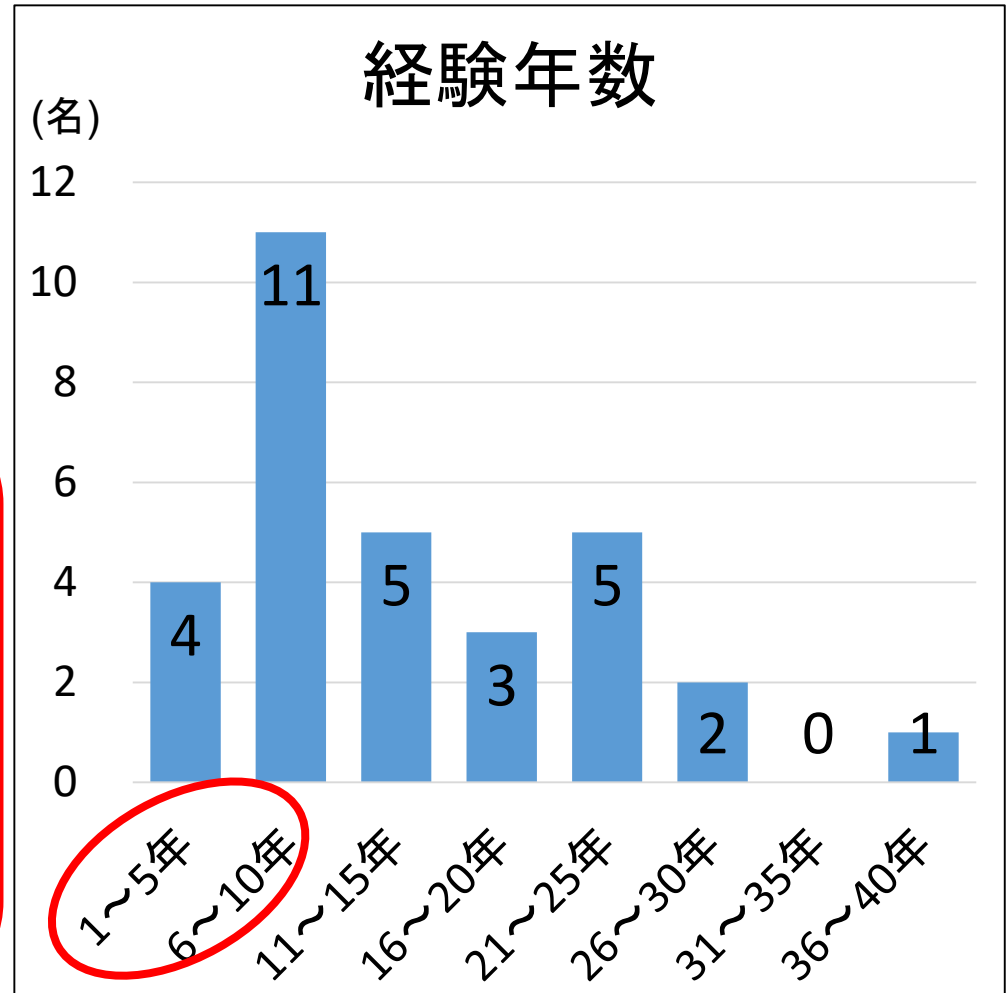
新潟市(西蒲区を除く)を中心に、
新発田市, 阿賀野市, 五泉市を訪問している

リハビリスタッフ

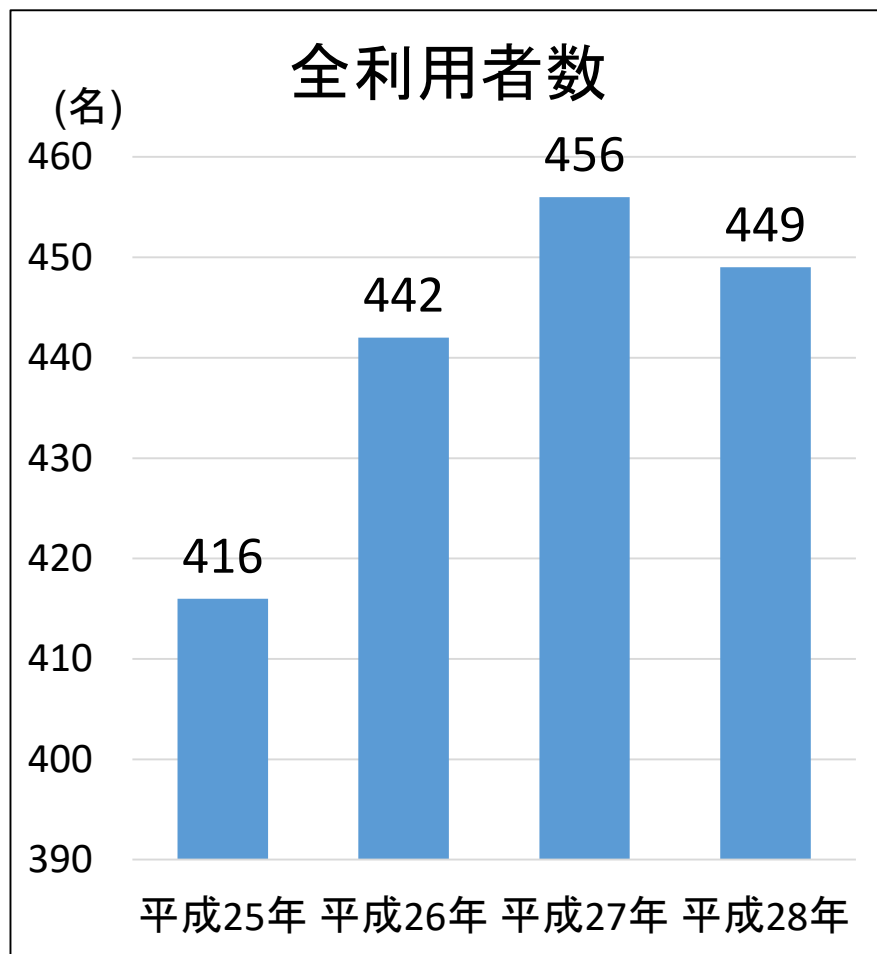
- ・作業療法士：10名
- ・理学療法士：20名
- ・言語聴覚士：1名

※平成28年4月1日時点

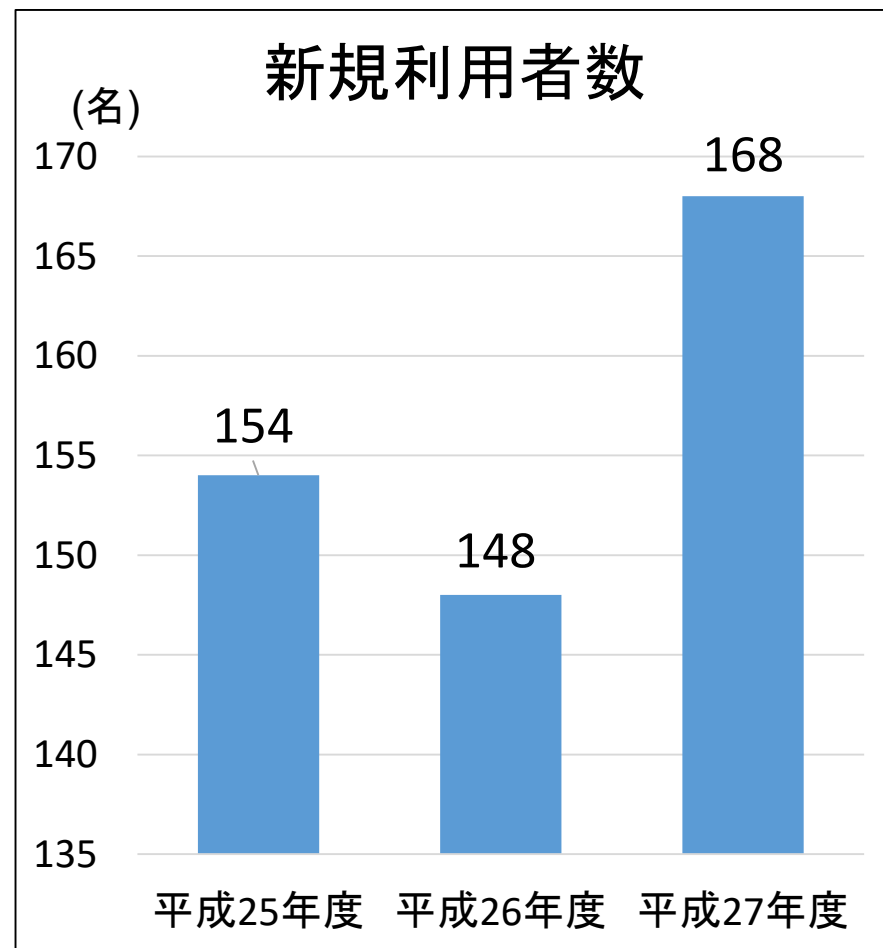
- ◆ スタッフ数は多いが、他施設と兼務している
- ◆ OT入職者が増えない
- ◆ 経験年数10年以下のスタッフが半数いる
- ◆ OTほとんどが入職後から訪問を経験した



訪問リハ利用者数



※毎年4月1日時点の全利用者数



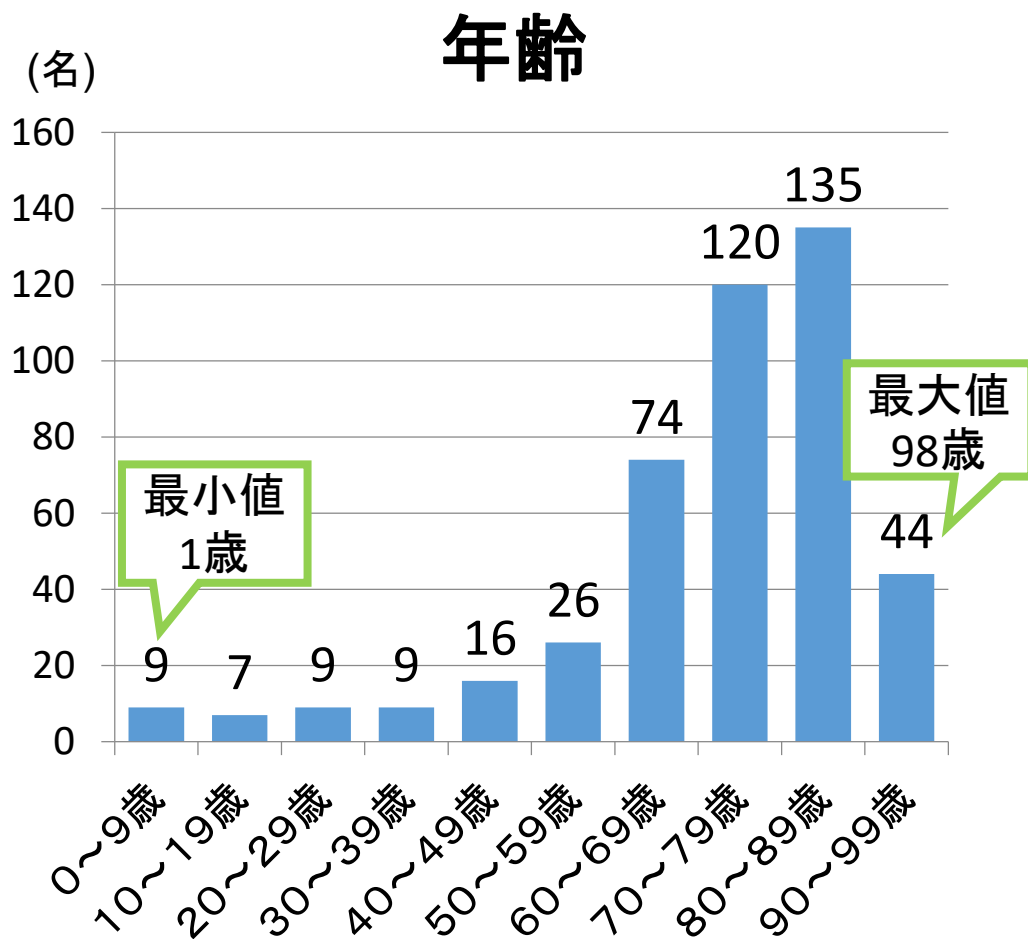
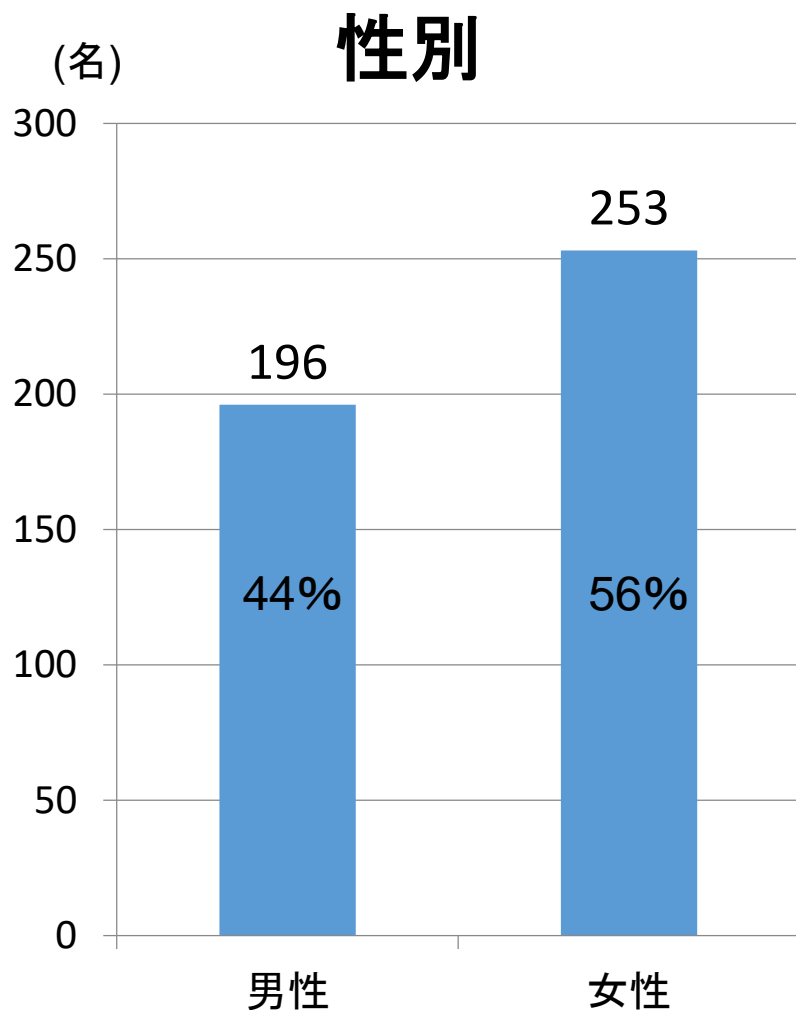
※年度別の新規利用者数

調査Ⅰ：利用者特性

平成28年4月1日時点での訪問リハ利用者
449名について、以下の項目を調査した

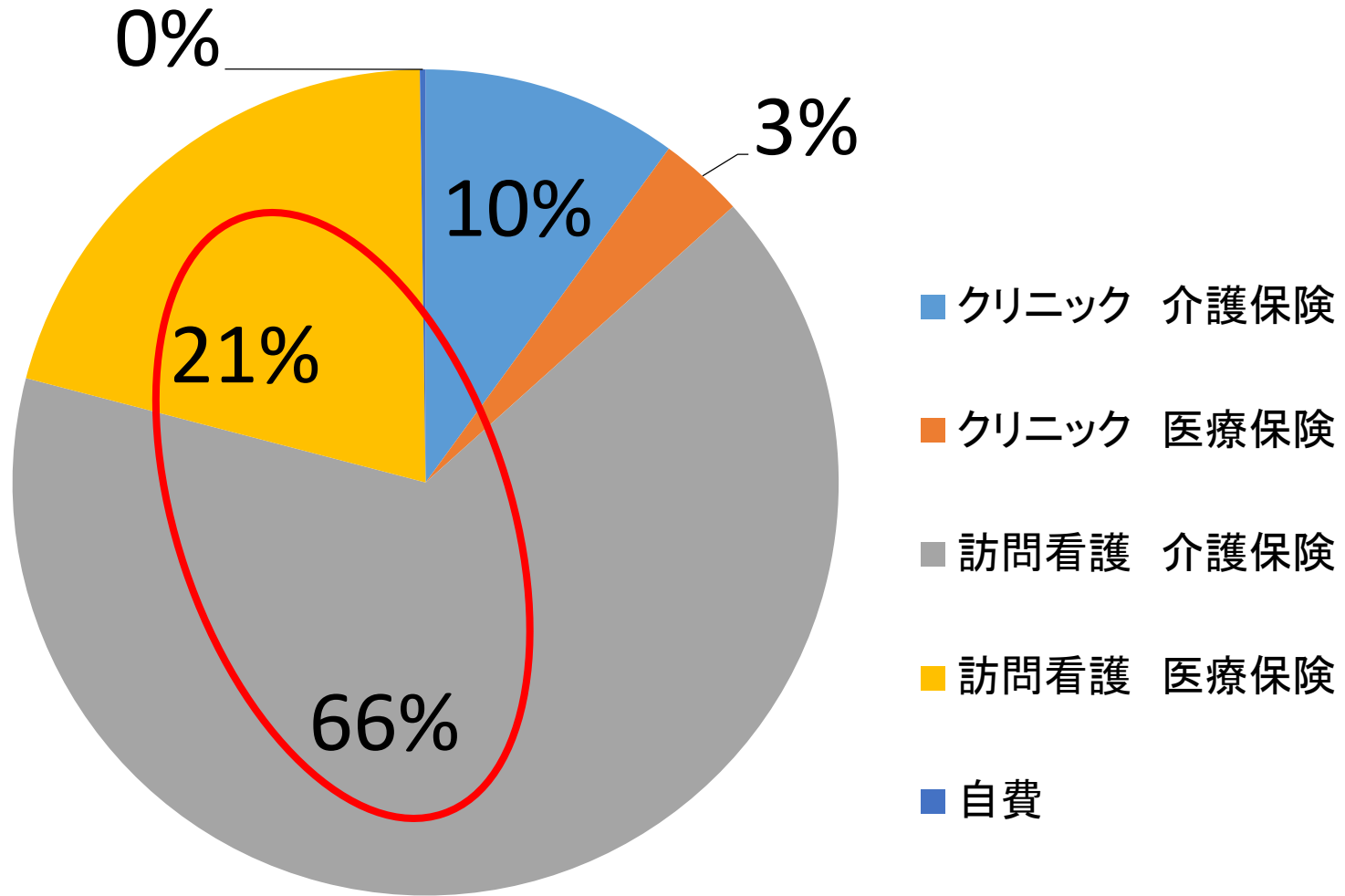
- 性別
- 年齢
- 事業所・保険区分
- 介護度
- 訪問頻度, 1回の訪問単位
- 疾患分類
- 居在地
- 訪問期間

調查 I : 結果



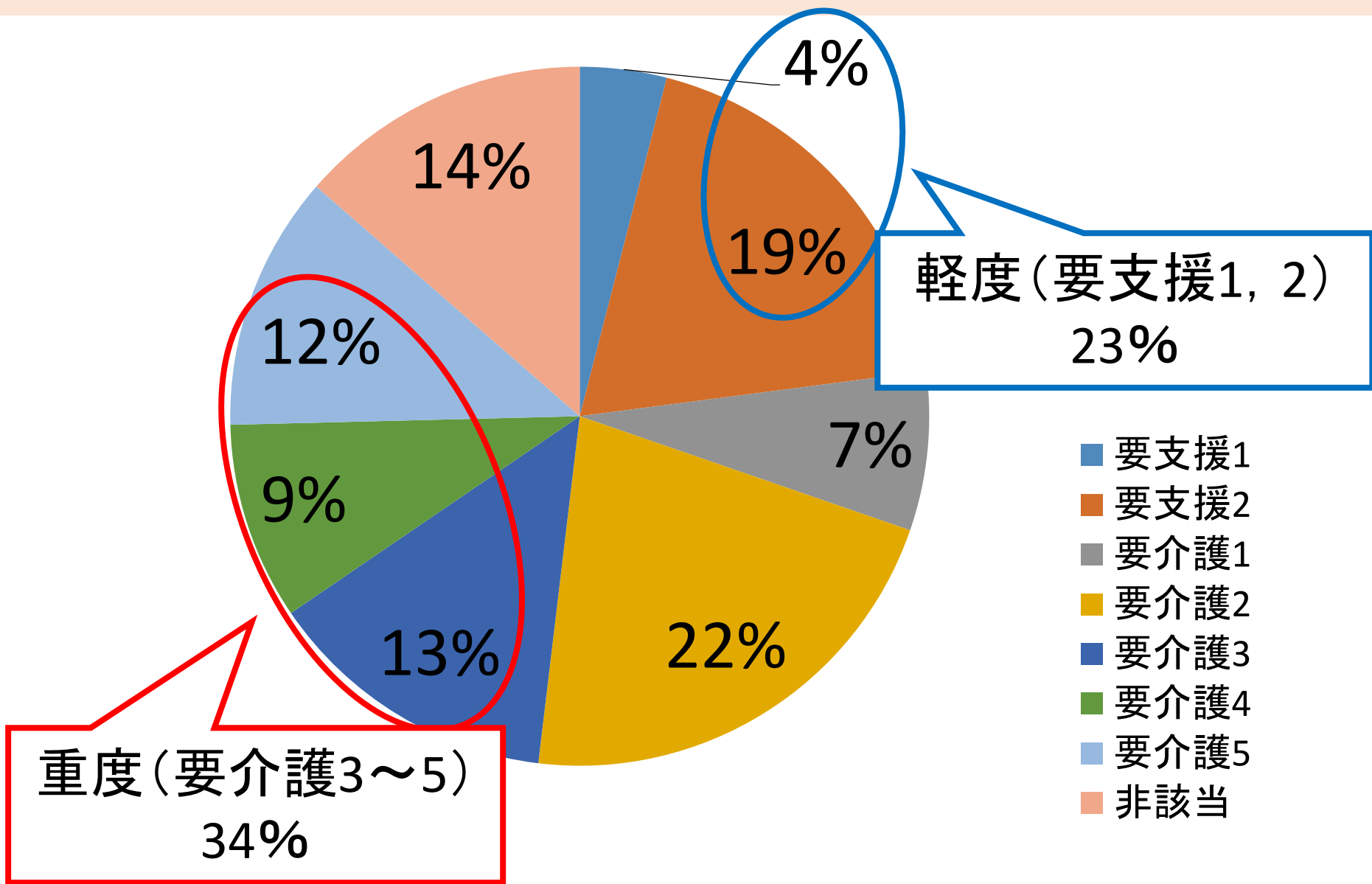
平均年齡 71.4 ± 18.9歲

調査 I : 結果 事業所・保険区分



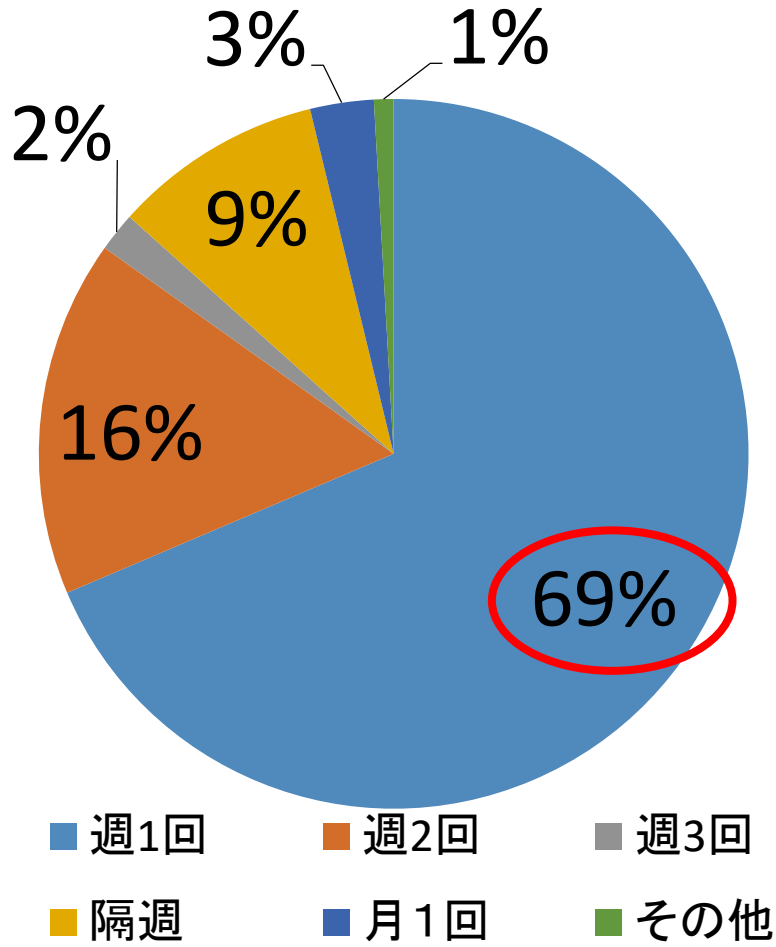
訪問看護ステーションからの訪問が87%

調査 I : 結果 介護度

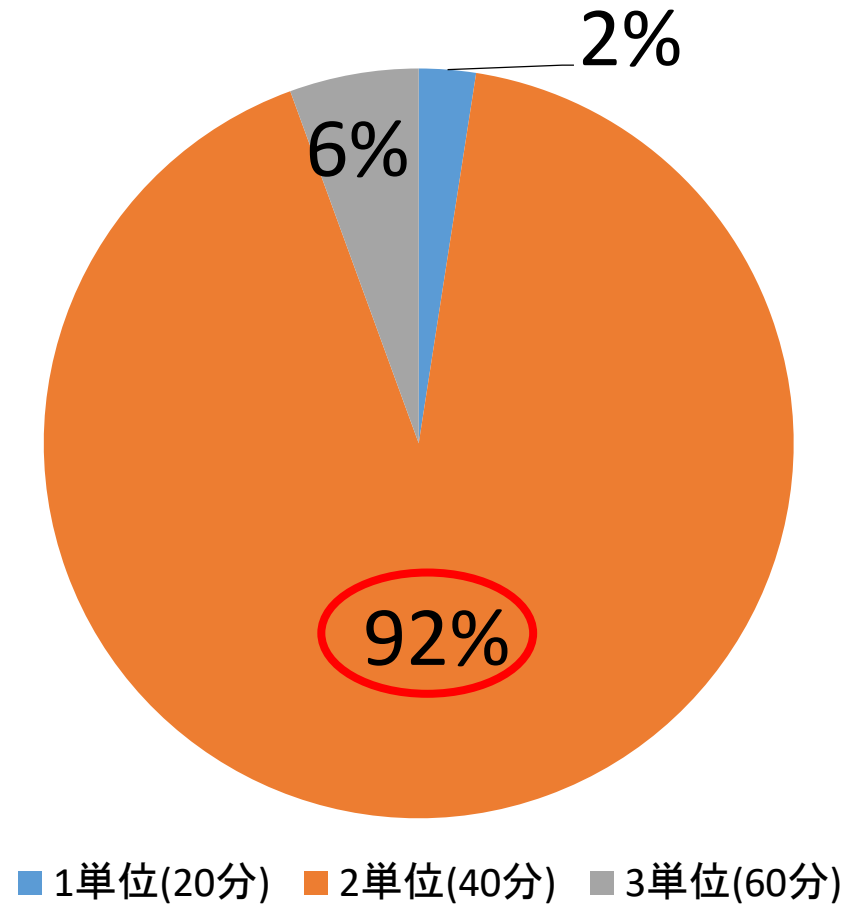


調査 I : 結果

訪問頻度

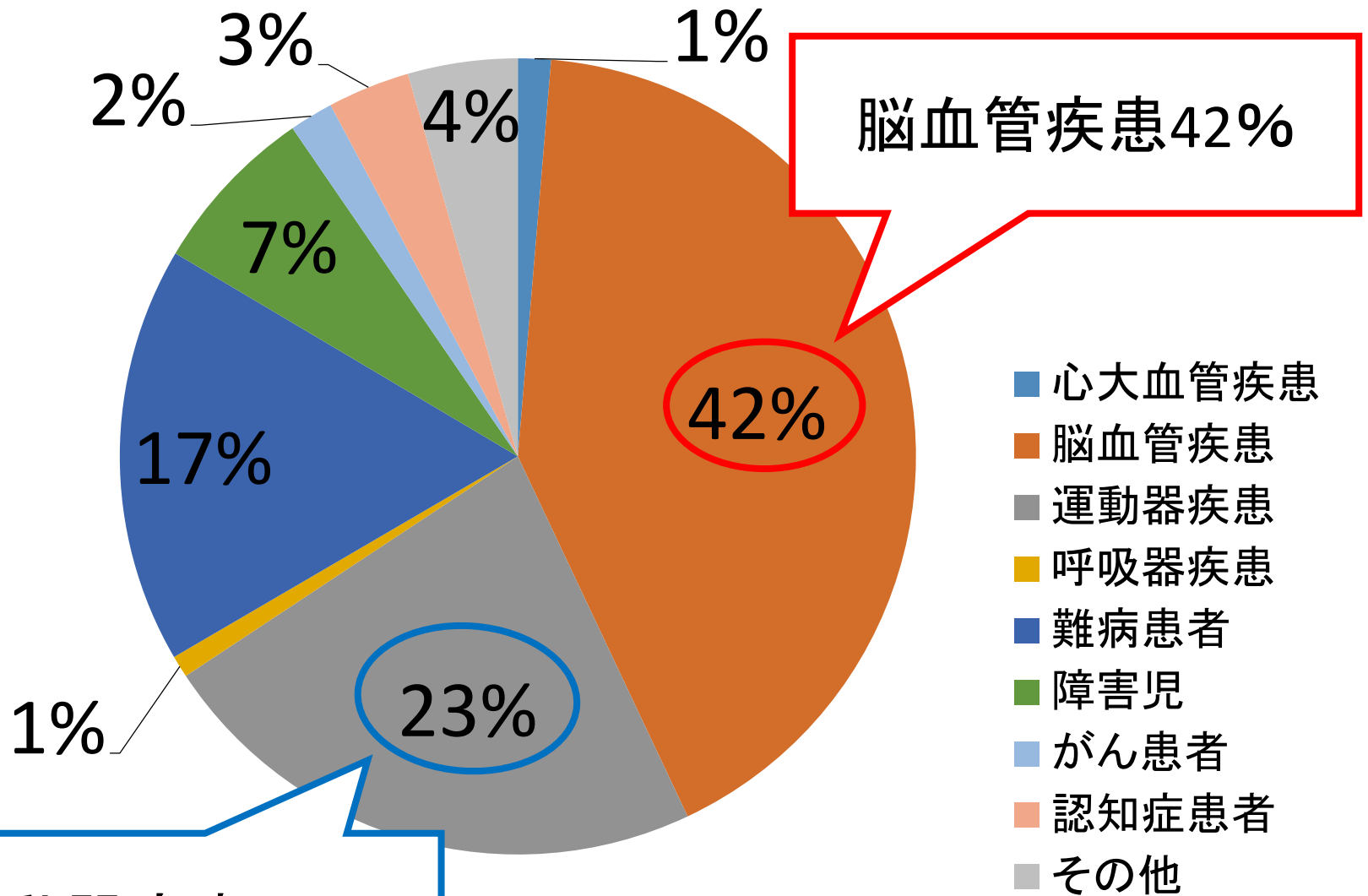


1回の訪問単位



訪問頻度は週1回が69%，1回の訪問単位は2単位が92%

調査 I : 結果 疾患分類



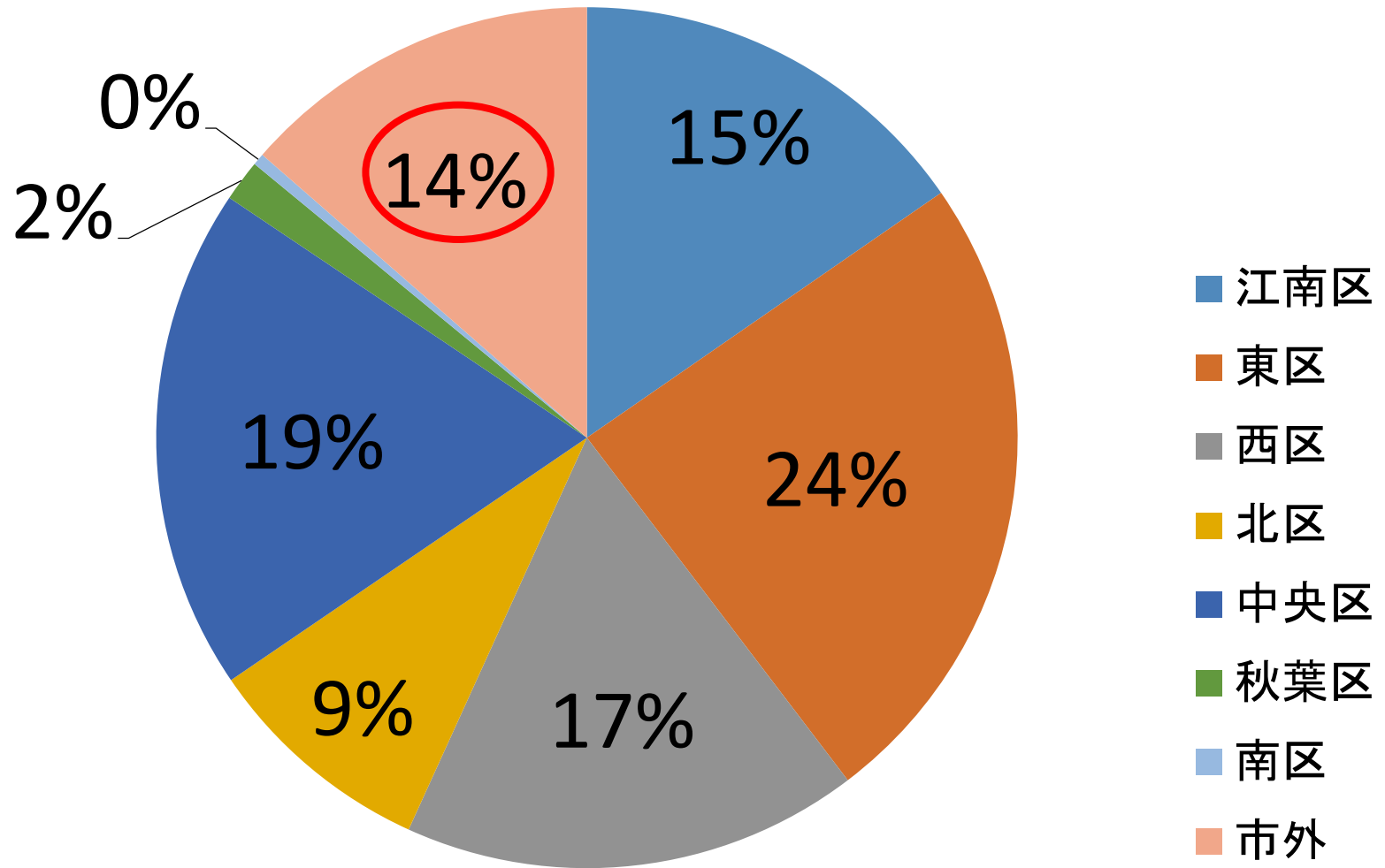
脳血管疾患42%

42%

23%

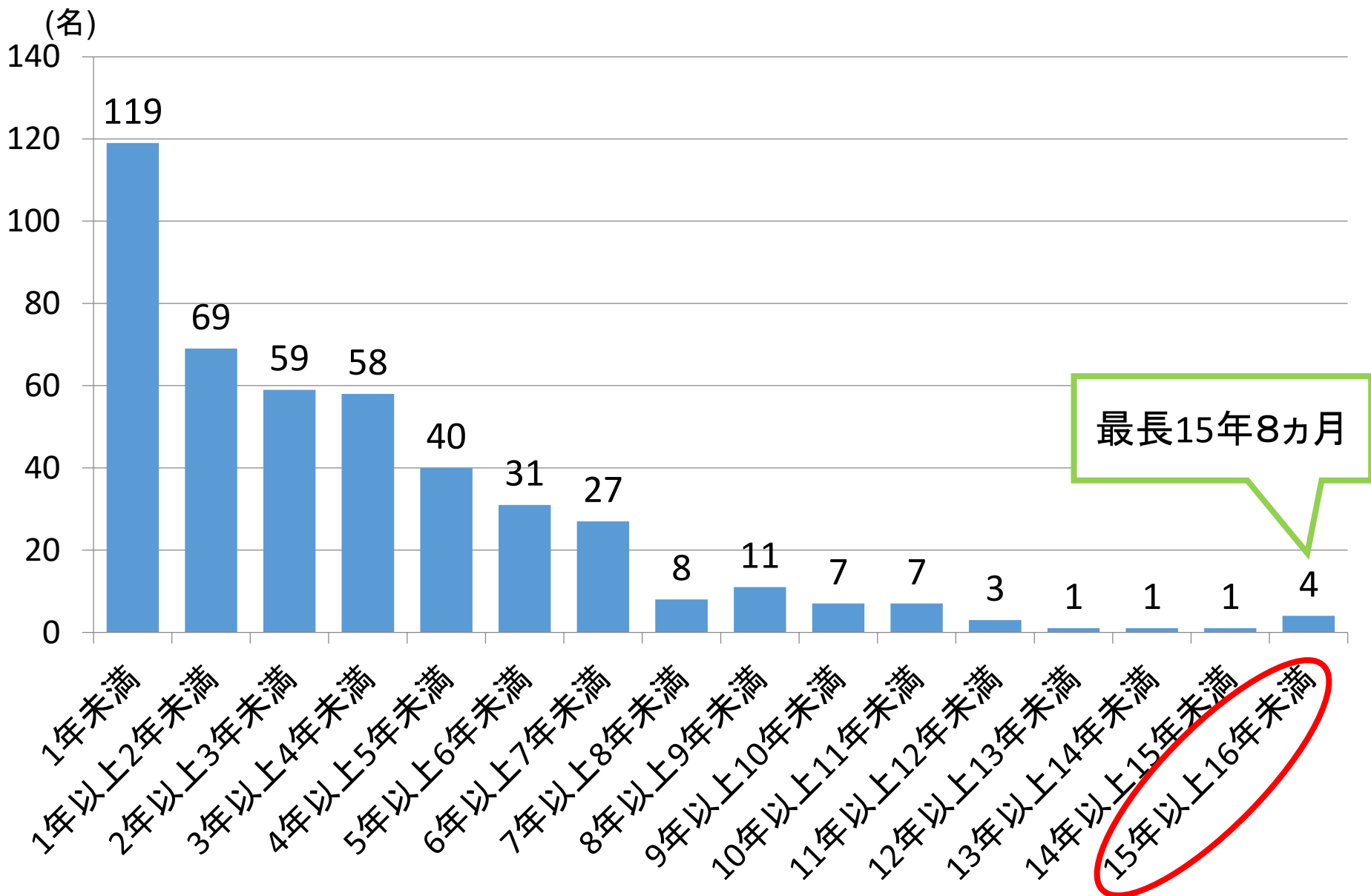
運動器疾患23%

調査 I : 結果 居在地



新潟市外(新発田市, 阿賀野市, 五泉市)14%

調査 I : 結果 訪問期間



調査Ⅰ：まとめ

- 年齢は高齢者が多く占めるが、1～98歳と幅広く小児も増加傾向
- 介護度は、重度の方は34%、軽度の方は23%
- 脳血管疾患，運動器疾患が多くを占めるが，対象となる疾患は幅広い
- 新潟市外への訪問は14%
- 15年以上継続している利用者がある

課題

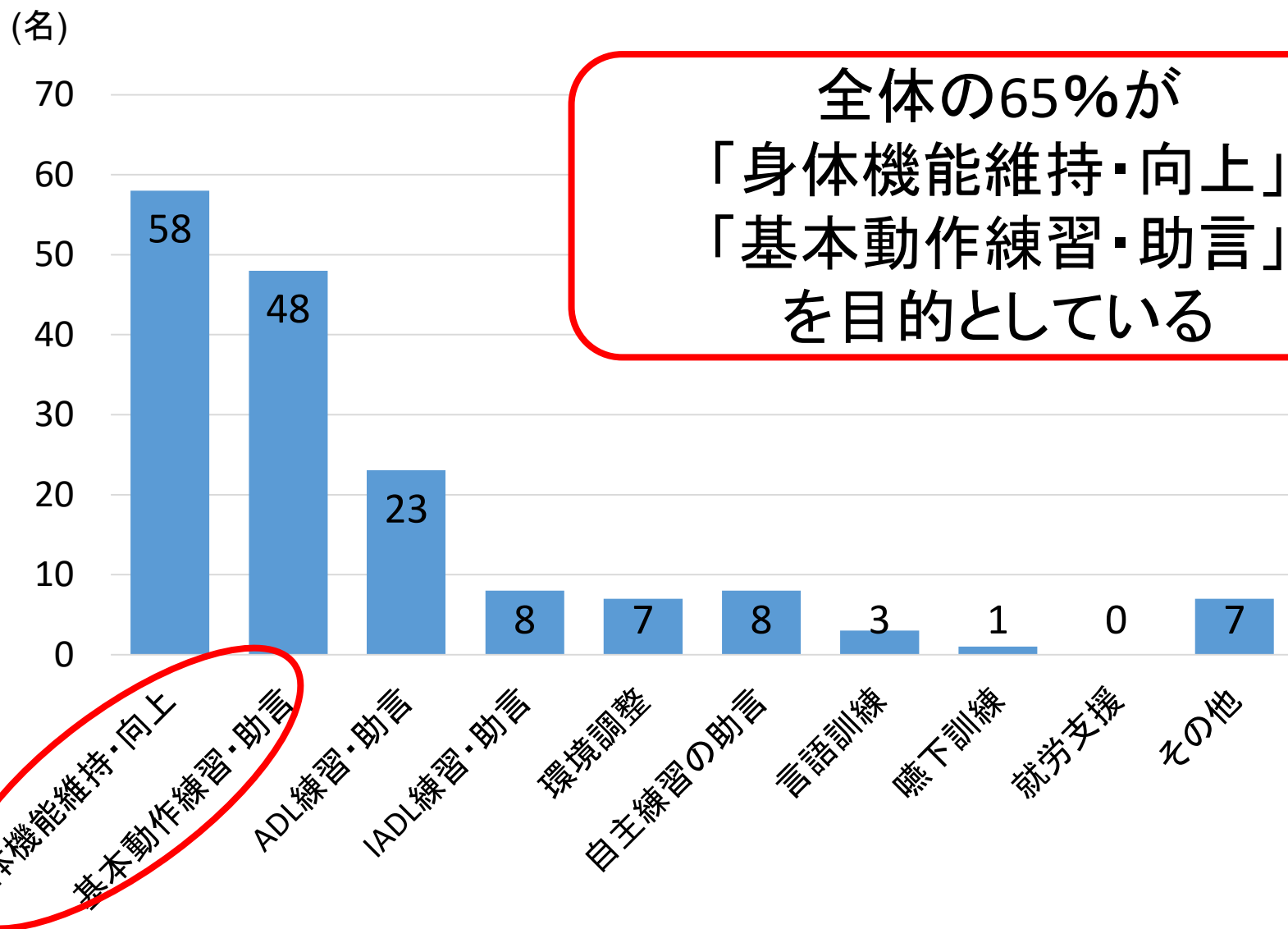
- ◆ 対象となる年齢・疾患が幅広く，様々な知識が必要となる
- ◆ 広範囲で訪問しているため，訪問件数が限られる
- ◆ 訪問期間が長期化している

調査Ⅱ：新規利用者 利用目的

平成27年11月1日～平成28年5月31日に訪問リハを開始した利用者89名の利用目的について調査した。利用目的を以下に分類した

- 身体機能維持・向上
- 基本動作練習・助言
- ADL練習・助言
- IADL練習・助言
- 環境調整
- 自主練習の助言
- 言語訓練
- 嚥下訓練
- 就労支援
- その他

調査Ⅱ：結果 新規利用者利用目的



調査Ⅱ：まとめ

訪問リハは、「利用者の能力に応じ生活機能の維持改善に働きかけ、積極的に活動や参加を促し自立促進を図るサービスである」とされている

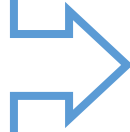
(訪問リハビリテーションマネジメントマニュアルより引用)

- 「身体機能維持・向上」「基本動作練習・助言」を目的とした利用者が65%
- ADLやIADL練習を目的とした利用者は少なく、就労支援はいない

課題

◆ 訪問リハの利用目的は身体機能に偏りがみられる

身体機能に
意識が向いている



訪問リハの長期化



活動・参加に
目を向けられるような関わり

生活行為向上マネジメントを活用できるOTの視点

地域ではOTの活躍が期待されている！

訪問リハの様子①

移動方法, 福祉用具の検討

A様, 男性, 70歳代. 疾患名: 脊髄梗塞
訪問期間: 3年3ヶ月
左上下肢に麻痺.
ADL(入浴以外)は車椅子使用し自立.
2つの事業所が介入し, 週5回リハビリ(PT,
OT)を実施.



A様

仕事で書類を持ち運ぶための
移動方法の検討
・介助用車椅子を
使用した移動

歩行能力を活かすための介入
・トイレへの移動・洗面所への移動・リビングへの移動

訪問リハの様子②

担当者会議，福祉用具の工夫

B様，女性，70歳代．疾患名：ALS 訪問期間：11ヶ月
両上肢拳上は困難であり，痛みがある．歩行は自立．
家族の強い希望で自宅復帰へ．

福祉用具の導入・工夫

食事動作が困難
上肢装具MOMO
を導入

担当者会議の様子



住宅型有料老人ホームから
自宅復帰に向けてのサービス調整
多職種と連携



能力や体型に合わせて
使用しやすいように工夫

